

## 《1. 研究報告》

|                            |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| 助成年度<br>Grant Year         | 2023                               |
| 研究テーマ<br>Research Title    | タイ北部の国境・山岳地帯における教育格差と公正に関する校種間比較研究 |
| 研究代表者<br>Representative    | 牧 貴愛                               |
| 代表者所属機関<br>Organization    | 広島大学大学院人間社会科学研究科                   |
| 職名・課程名<br>Position/Program | 准教授・国際教育開発プログラム                    |

## ①研究概要

研究の背景、目的・リサーチクエスト、学術的重要性、対象について記述してください。

**研究の背景：**研究代表者は、2019 年からタイの教育格差に関する研究に従事してきた。調査研究を通して、(1) タイの教育格差は、学校へのアクセス（就学）といった「教育の量」ではなく、全国学力テストのスコアに示される「教育の質」において顕著であること、(2) タイの教育格差社会を生き抜いた国立大学生（エリート）へのインタビュー調査から、家庭の経済力と人的ネットワーク（パトロン・クライアント関係）が、子どもの生涯を大きく左右すること、(3) タイでは2018 年に設置された「公正な教育のための基金（Equitable Education Fund: EEF）」が実施主体となり、貧困世帯への条件付現金給付、幼児教育支援、へき地教員養成など種々の格差是正措置が講じられていること、を明らかにした。しかしながら、学校レベルにおける教育格差の是正、公正な教育をめざした取り組みの実際については未解明である。

**研究の目的・リサーチクエスト：**本研究の目的は、タイ北部の国境・山岳地帯の初等・中等学校、国境警備隊学校、移民学習センターといった校種の異なる教育機関を調査対象として (1) 学校管理職と教員の公正な教育に対する認識、(2) 学校での公正な教育をめざした取り組みの実際を明らかにし、(3) 校種間の比較を行い、学校レベルでの教育格差の構造を把握することである。校種間の比較を通して、たとえば、移民学習センター、国境警備隊学校を「底辺」とする教育機関（学校）の序列が、学校管理職や教員の認識において形成されており、それが教育機関（学校）における教育の公正性をめざした取り組みを限定的なものにしているのではないか、という仮説を検証する。

**学術的重要性：**本研究が対象とするタイ北部の国境・山岳地帯の子どもたちについて、インターセクショナルリティ（交差性）の視点を用いて考察を加えたことにより、外国籍・無国籍の子どもたちが言語的障壁や保護者の学校教育への関与の低さといった規律的権力領域（disciplinary domain of power）の課題に直面していること、また、農業や建設業における低賃金や長時間労働といった構造的権力領域（structural domain of power）の課題に直面していることが明らかになった。外国籍・無国籍の子ども、保護者、学校教育の実態に関する知見は、子どもたちに必要な教育・学習支援のあり方について、政策立案、学校等での教育実践の双方に一定程度の示唆を与えうるものである。

**対象：**タイ北部の国境・山岳地帯を擁するチェンマイ県、チェンラーイ県、ターク県にある (1) 国立の初等学校（前期中等教育課程を併設する機会拡大学校を含む）、(2) 自治体立の初等学校（前期中等教育課程を併設する機会拡大学校を含む）、(3) 国境警備隊学校（初等教育段階）、(4) 移民学習センター（外国籍・無国籍の児童生徒が就学する教育機関）を調査対象とする。(1)～(4)の校種について、各県1校を選定する。具体的な調査対象校の選定は、研究目的の達成が最大限可能となるようにタイ人共同研究者と相談、助言を得ながら進めた。なお、国境警備隊学校は、首相府監督下の独立機関である国家警察局長官が設置する学校である。同校では警察官が学校教員の役割を担っている。全国に200校余りが設置されており、そのほとんどが初等学校である。移民学習センター（Migrant Learning Center）は、NGO または民間が設置する外国籍・無国籍児童生徒を対象とした教育機関であり、チェンラーイ県を含む5県に110か所余り設置されている。

## ②研究の経過（研究課題１）

研究課題１について、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

---

研究課題１：学校管理職と教員の公正な教育に対する認識の解明

実施内容：共同研究者とともに調査対象の学校・教育機関を訪問し、管理職ならびに教員を対象として、教育格差、教育の公正性の認識を明らかにするためのインタビュー調査を実施した。インタビュー調査では、本研究の目的などについて説明し、共通理解、調査協力の同意を得た後に、学校管理職、学校教員それぞれの調査対象校での勤務歴や経歴、調査対象校の児童・生徒数、教職員数、児童・生徒の民族構成、教育課程、特色ある教育活動、学校給食の有無、教育維持費（学校徴収金）の有無、地域・保護者の学校参加、他機関との連携、児童・生徒の卒業後の進路、教員の研修機会、学校の将来像、学校が直面する課題についてタイ語を用いて尋ねた。

## ②研究の経過（研究課題２）

研究課題２について、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

---

研究課題２：学校での公正な教育をめざした取り組み実態の解明

実施内容：共同研究者とともに調査対象の学校・教育機関を訪問し、管理職ならびに教員を対象として、学校での公正な教育をめざした取り組み実態を明らかにするためのインタビュー調査を実施した。インタビュー調査では、本研究の目的などについて説明し、共通理解、調査協力の同意を得た後に、学校管理職、学校教員それぞれの調査対象校での勤務歴や経歴、調査対象校の児童・生徒数、教職員数、児童・生徒の民族構成、教育課程、特色ある教育活動、学校給食の有無、教育維持費（学校徴収金）の有無、地域・保護者の学校参加、他機関との連携、児童・生徒の卒業後の進路、教員の研修機会、学校の将来像、学校が直面する課題についてタイ語を用いて尋ねた。

## ②研究の経過（研究課題３）

研究課題３について、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

---

研究課題３：校種間の比較を行い、学校レベルでの教育格差の構造の把握

実施内容：研究課題１と２から得られた知見について比較表を作成し、共同研究者とともに４校種の類似や差異（特徴）を検討した。比較表の項目は、次の１６項目である。①学校の設置者、②開設している教育課程、③学校の立地、④児童・生徒数、⑤教職員数、⑥児童・生徒の民族構成、⑦カリキュラム、⑧特色ある取り組み、⑨学校給食の有無、⑩教育維持費（学校徴収金）の有無、⑪地域・保護者の学校参加、⑫他機関との連携、⑬児童・生徒の卒業後の進路、⑭教員の研修機会、⑮学校の将来像、⑯学校が直面する課題。

### ③成果・期待される波及効果等

研究を実施して得られた成果および期待できる波及効果について記述してください。

成果：今回の訪問調査から、(1) 日雇い労働、季節労働に従事する保護者の存在や、(2) 国境・山岳地帯には地理的な幅があり、一般に想定する山岳地帯の遠隔地のみならず、市街地も含まれること、そのため外国籍・無国籍の児童・生徒を受け入れる市街地の学校にも困難な状況があること、(3) 教科専門性が合致しない教員が配置されていること、(4) 子どもたちの将来に対して各学校（教育機関）が自らの役割を限定的に捉えていることなどが明らかになった。また、研究計画構想当初の仮説（移民学習センター、国境警備隊学校を「底辺」とする教育機関（学校）の序列が学校管理職や教員の認識において形成されており、それが教育機関（学校）における教育の公正性をめざした取り組みを限定的なものにしているのではないか）については、4 タイプの学校は設置主体や設置経緯（教育の目的や力点）が異なるため並置して比べることができないこと、市街地、郊外、国境・山岳地帯といった立地により児童・生徒の民族構成や社会経済的な状況が異なること、そして、そうした立地や児童・生徒の属性が学校管理職や教員が自らの学校の役割を限定的に捉えてしまうことに少なからぬ影響を与えていることが明らかになった。

期待される波及効果：本研究が対象とするタイ北部の国境・山岳地帯の子どもたちは、就学率の点では「ラスト数パーセント」と呼ばれる存在である。本研究では、国際的な教育開発目標（SDG 目標 4 質の高い教育をみんなに）を念頭におきつつ、子どもたちの就学実態の把握や、就学先の学校の状況、卒業後の進路など多面的な把握を行った。本研究により明らかになる学校レベルの教育格差の実態、構造は、タイ教育省等の関連機関が校種毎に必要な具体的支援を検討する際の材料になりうる。

### ④成果物

本研究について発表した論文、刊行物、シンポジウム等の情報を記載してください。

参照 URL がある場合はそれを含めてください。

1. 牧貴愛「タイ北部国境・山岳地帯の学校教育—教員への聞き取り調査結果—」『日本教育学会大会研究発表要項』第 83 巻、2024 年、79～80 頁。  
URL : [https://doi.org/10.11555/taikaip.83.0\\_57](https://doi.org/10.11555/taikaip.83.0_57)
2. Maki, T., Saenghong, N., Shimoda, A., Koolsriroj U., Intersectionality among Children of the Mountainous Border Areas of Northern Thailand: Interactive Collaborative Study of Japanese and Thai Researchers, International Association for Intercultural Education 2025 Conference, 11-13 June 2025, Budapest, Hungary. 査読を経て受理済、2025 年 6 月に口頭発表を予定。  
URL : <https://iaie.org/>

## ⑤写真

研究実施中の様子、成果物等の写真を掲載してください。(各写真にキャプションを付けてください。)

---



学習センターでのインタビュー調査(A 県 B 郡)



内務省管轄下の機会拡大学校 (A 県 B 郡)



基礎教育局管轄下の機会拡大学校(A 県 B 郡)



国境警備隊学校 (A 県 B 郡)



内務省管轄下の機会拡大学校 (C 県 D 郡)



国境警備隊学校 (C 県 D 郡)



基礎教育局管轄下の機会拡大学校(C 県 D 郡)



学習センター (C 県 D 郡)





基礎教育局管轄下の機会拡大学校（E 県 F 郡）



国境警備隊学校（E 県 F 郡）



基礎教育局管轄下の機会拡大学校でのインタビュー調査（E 県 F 郡）



国境警備隊学校でのインタビュー調査（E 県 F 郡）



学習センター（E 県 F 郡）



内務省管轄下の機会拡大学校（E 県 F 郡）



学習センター運営経験者へのインタビュー調査（E 県 F 郡）



内務省管轄下の機会拡大学校でのインタビュー調査（E 県 F 郡）